

2017年3月期 第1四半期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2016年7月29日



東証第1部：6754
<http://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

I . 2017年3月期第1四半期 業績概要

I - 1. 事業概要

I - 2. 連結決算概要

I - 3. 2017年3月期 通期業績予想（連結）

II . T&M事業の事業機会

(ノート部記載なし)

Blank slide

(ノート部記載なし)

I - 1. 事業概要

T&M事業

開発・製造・建設・保守用

- ▶ モバイル市場 : LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備



PQA事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2016年3月期 実績(連結) : 955億円

T&M 71%			PQA 20%	その他 9%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 35%	エレクトロニクス 20%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 15%	アジア、パシフィック 35%	米州 30%	EMEA 20%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

I - 2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

セグメント		2017年3月期第1四半期（4月-6月）の状況
▶ T&M : モバイル市場は投資抑制が続く		
モバイル	チップ・端末ベンダーの設備投資抑制継続	
NW	光デジタル関連への設備投資は堅調	
エレクトロニクス	モジュール開発・業務用無線需要は堅調	
アジア	中国スマホ市場の成長率鈍化 光デジタル関連の製造設備需要堅調	
米州	光デジタル関連への設備投資は回復基調	
▶ PQA : 国内コンビニ市場中心に設備投資は堅調		

T&M: Test & Measurement NW: Network Infrastructure PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision:ensure

6

Financial Results FY2016Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

T&M事業は、モバイル市場において、全般的に顧客の投資抑制が継続しています。スマートフォンの出荷台数伸び率鈍化の影響で、中国の端末製造市場のみならず、チップセットベンダー等のR&D市場においても設備投資に慎重な姿勢がみられました。結果として、モバイル計測市場の停滞が継続しています。

ネットワーク・インフラ市場においては、データセンター向け光モジュール開発・製造で用いられる光デジタル関連計測器の需要は堅調でした。

プロダクツ・クオリティ・アシュアランス(PQA)事業は、国内・海外市場とも増収基調が継続しています。とりわけ国内においては、コンビニ市場を中心に多様な加工食品市場で、新製品が設備更改需要を捉え、売上を伸ばしました。

I - 2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	240	209	△ 31	△ 13%
売上高	236	203	△ 33	△ 14%
営業利益	15	7	△ 8	△ 52%
税引前利益	17	0	△ 17	△ 100%
当期利益	11	0	△ 11	△ 98%
当期包括利益	25	△ 28	△ 53	-
フリーキャッシュフロー	14	38	24	175%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

Anritsu envision:ensure

7

Financial Results FY2016Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

グループ全体の受注高は前年同期比13%減の209億円、売上高は前年同期比14%減の203億円となりました。営業利益は前年同期比52%減の7億円となりました。

なお急激な円高の影響のため、金融費用として為替差損約7億円を計上しています。

当期利益は、前年同期比98%減の25百万円、包括利益は、△28億円となりました。

フリーキャッシュフローは、運転資本の改善効果などによる営業キャッシュフローが増加し、38億円のプラスとなりました。

I - 2. 連結決算概要 - 金融収支・税金費用・包括利益 -

(単位：億円)

	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前期比 増減額
営業利益	15	7	△ 8
為替差損益*	1	△ 7	△ 8
その他の金融収益・費用など	1	0	△ 1
税引前当期利益	17	0	△ 17
法人所得税費用	5	△ 0	△ 5
当期利益	11	0	△ 11
その他の包括利益	14	△ 28	△ 42
在外営業活動体の換算差額	10	△ 28	△ 38
その他	4	0	△ 4
当期包括利益	25	△ 28	△ 53

* 為替予約時価評価を含む

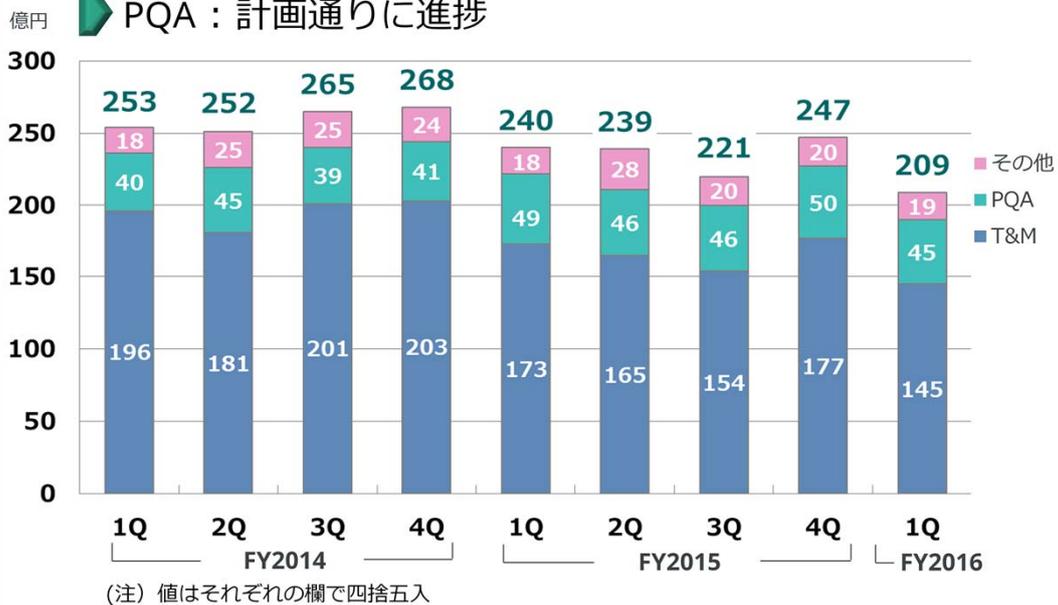
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

急激な円高の影響のため、為替差損約7億円を計上しています。
同様の理由で、その他の包括利益において、海外子会社への投資分の評価替え(B/S
レート 3月末:1USD=112.62円から6月末:1USD=102.96円)が発生しました。

I - 2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

▶ T&M：前年四半期比16%減少

▶ PQA：計画通りに進捗



Anritsu envision:ensure

9

Financial Results FY2016Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

T&M事業の第1四半期受注高は、スマートフォン開発・製造用計測器の需要減少などの影響により、前年同期比16%減の145億円となりました。

PQA事業の第1四半期受注高は、国内外とも計画通りに推移しています。

なお、受注残高はグループ全体で173億円(前期比14%減)、T&M事業で125億円(前期比15%減)でした。

I - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	181	146	△35	△19%
	営業利益	18	7	△11	△60%
PQA	売上高	37	41	4	11%
	営業利益	△0	1	1	-
その他 (含：内部消去)	売上高	19	15	△4	△18%
	営業利益	△3	△1	2	-
合計	売上高	236	203	△33	△14%
	営業利益	15	7	△8	△52%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

T&M: Test & Measurement

PQA: Products Quality Assurance

 envision: ensure

10

Financial Results FY2016Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

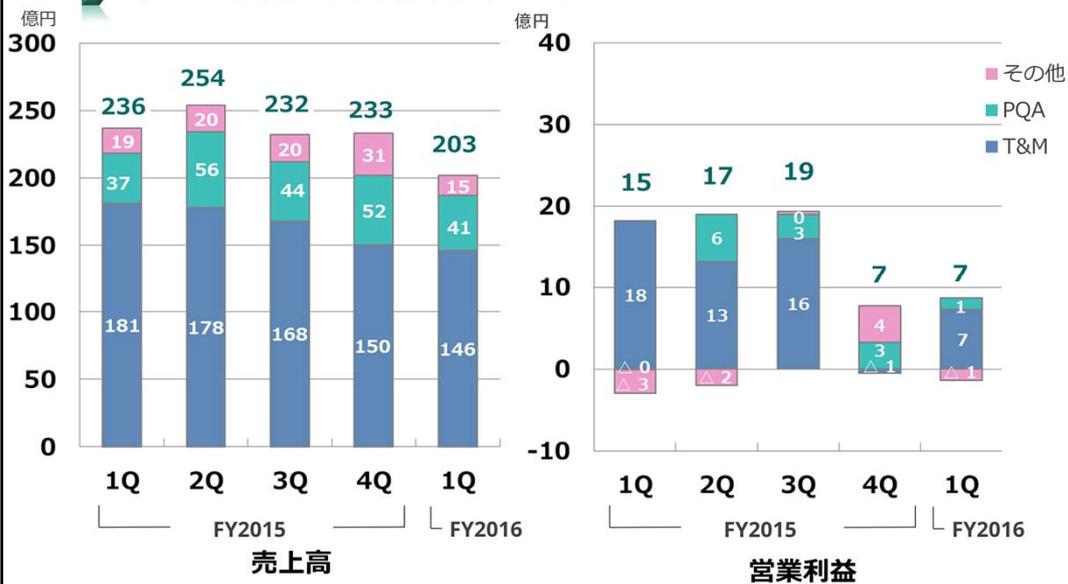
T&M事業は減収減益となり、営業利益率は5.0%でした。

売上高の前年同期比19%減少分のうち、8%分が円高要因によるものです。

PQA事業は増収増益となり、営業利益率は3.2%でした。

I - 2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第1四半期の連結営業利益率 3.6%



Anritsu envision:ensure

11

Financial Results FY2016Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

第1四半期の連結及びT&M事業、PQA事業の営業利益率はそれぞれ

連結 3.6%

T&M 5.0%

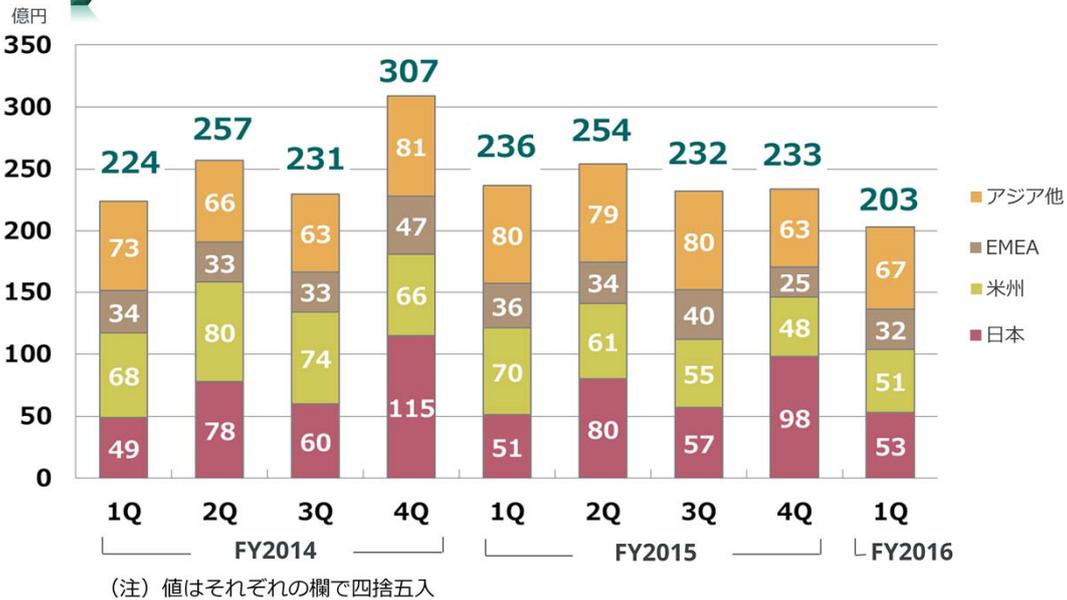
PQA 3.2%

となりました。

T&M事業の利益が前年度第4四半期より改善している理由は、第1四半期の季節要因とスリム化施策の結果です。

I - 2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

▶ 前年第1四半期比、米州、EMEA、アジアで減収



Anritsu envision:ensure

12

Financial Results FY2016Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

日本市場の売上高は、T&M事業、PQA事業ともに増収で、前年同期比4%の増収でした。

海外市場は全ての地域で減収となり、米州市場は前年同期比27%、EMEA市場は同13%、アジア市場は同16%の減収となりました。

I - 2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 営業CFマージン率24%

内訳

(単位：億円)

FY2016 Q1

- ①営業CF： 48億円
- ②投資CF： △10億円
- ③財務CF： △17億円

フリーキャッシュフロー
(①+②)： 38億円

現金同等物期末残高
378億円

有利子負債高
220億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、主に売上債権の回収等により、48億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、10億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは38億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフロー 資金流出17億円の主なものは、配当金の支払い16億円(期末配当分1株12円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は378億円となりました。

I - 3. 2017年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月開示より変更なし

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		2016/3期		2017/3期	
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		955	970	15	2%
営業利益		59*	72	13	22%
税引前利益		54**	71	17	31%
当期利益		38	53	15	41%
T&M	売上高	677	680	3	0%
	営業利益	47*	55	8	17%
PQA	売上高	189	200	11	6%
	営業利益	12	14	2	17%
その他 (含：内部消去)	売上高	89	90	1	1%
	営業利益	△ 0	3	3	-

*リストラ費用約7億円含む

**金融収支に為替差損約4億円含む

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) FY15為替レート : 1米ドル120円、1ユーロ=133円
FY16想定為替レート : 1米ドル110円、1ユーロ=125円

Anritsu envision:ensure

14

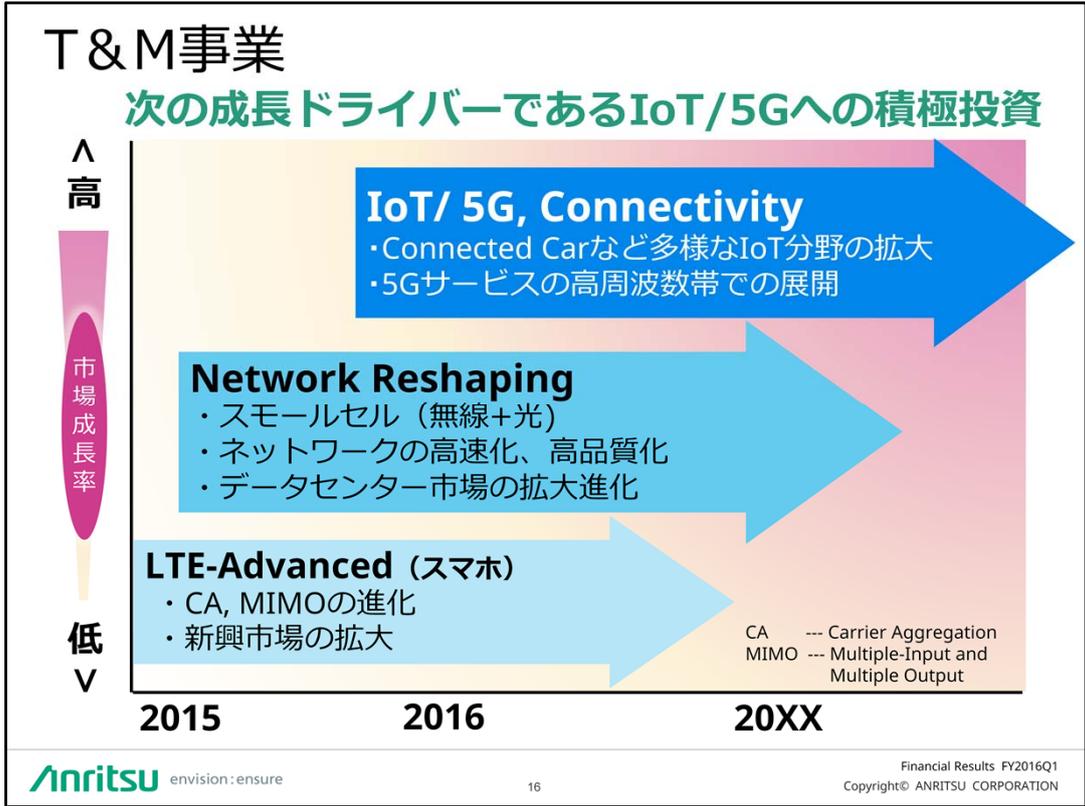
Financial Results FY2016Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

2017年3月期の通期業績の見通しは、4月27日に発表した計画のとおりです。引き続き、達成に向けて、組織を挙げて取り組んでいく所存です。

今後の為替動向を注視し、通期業績への影響を精査していく予定です。

Ⅱ. T&M事業の事業機会

(ノート部記載なし)



3つの成長ドライバー毎に市場動向や顧客ニーズをとらえた適確なソリューションを提供し、2017年3月期の収益の確保に努めます。

T&M事業：事業機会(1)

LTE-Advanced (スマホ)

- ・ CA, MIMOの進化
- ・ 新興市場の拡大

2015

2016

20XX

- ・ 3CA, MIMO対応デバイスの開発需要
- ・ 1ギガスループットへの対応
- ・ インドをはじめとする新興市場の開拓



デバイスの開発試験
ソリューション



スマホ製造試験
ソリューション



Anritsu envision:ensure

17

Financial Results FY2016Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

1. LTE-Advanced(スマホ)におけるソリューション

①CA、MIMOの進化

[ビジネスチャンス]

- ・ 3CA、MIMO対応デバイスの開発需要
- ・ 1ギガスループットへの対応

[当社のソリューション]

- ・ デバイス開発試験ソリューション

②新興市場の拡大

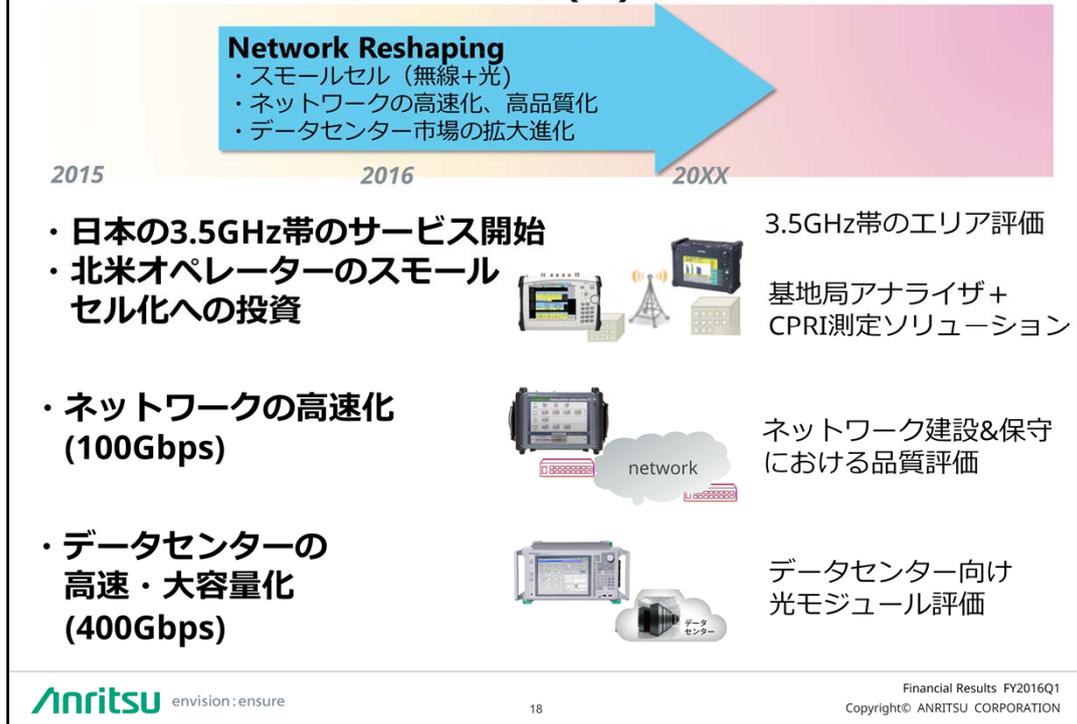
[ビジネスチャンス]

- ・ インドをはじめとする新興市場の開拓

[当社のソリューション]

- ・ スマホ製造試験ソリューション

T&M事業：事業機会(2)



2. Network Reshapingにおけるソリューション

①スモールセル(無線+光)

[ビジネスチャンス]

- ・日本の3.5GHz帯のサービス開始
- ・北米オペレータのスモールセル化への投資

[当社のソリューション]

- ・3.5GHz帯のエリア評価
- ・基地局アナライザ+ CPRI測定ソリューション

②ネットワークの高速化、高品質化

[ビジネスチャンス]

- ・ネットワークの高速化 (100Gbps)

[当社のソリューション]

- ・ネットワーク建設&保守における品質評価ソリューション

③データセンター市場の拡大進化

[ビジネスチャンス]

- ・データセンターの高速・大容量化 (400Gbps)

[当社のソリューション]

- ・データセンター向け光モジュール評価ソリューション

T&M事業：事業機会(3)

IoT/ 5G, Connectivity

- ・Connected Carなど多様なIoT分野の拡大
- ・5Gサービスの高周波数帯での展開

2015

2016

20XX

- ・オペレーター主導のIoT開発需要
(カテゴリーM, NB-IoT)



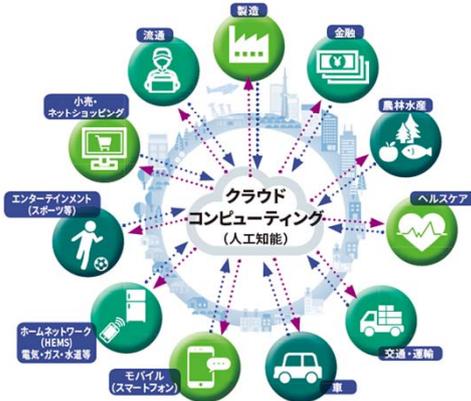
- ・車両緊急通報
システムの導入



- ・オートモーティブ
市場向けモジュール
の開発需要



車載モジュールの開発試験



Anritsu envision:ensure

19

Financial Results FY2016Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

3. IoT/ 5G, Connectivityにおけるソリューション

Connected Carなど多様なIoT分野の拡大

[ビジネスチャンス]

- ・オペレーター主導のIoT開発需要(カテゴリーM、NB-IoT)
- ・車両緊急通信システム(eCall/ERA-GLONASS)および
オートモーティブ市場向けモジュール開発需要

[当社のソリューション]

- ・IoTスマートモジュールの開発試験ソリューション
- ・車載モジュールの開発試験ソリューション



(ノート部記載なし)